

議員行政視察報告

平成30年6月27日(水)から28日(木)に、議員7名により、岐阜県岐阜市の「みんなの森 ぎふメディアアコスモス」と可児市の「文化創造センター aiaa」の行政視察、静岡県沼津市の「泊まれる公園 INN THE PARK」の見学をいたしましたので、その概要を報告します。

参加議員 鈴木真徳・利根川茂・中野博・南雲まさ子
井上栄一・田代実・平野由里子

みんなの森 ぎふメディアアコスモス

平成27年7月に開館した岐阜市立「みんなの森 ぎふメディアアコスモス」は、市の中心市街地に位置する岐阜大学医学部跡地で事業展開している「つかさのまち夢プロジェクト」の第1期事業で



職員より館内の説明を受ける

要は次のとおりです。

施設の利用状況は、若者の利用が多く、平成29年度実績で、年間約130万人(1日当り平日約3千人、休日5千人)が利用し、また図書館は、新規登録者数は、3万372人開館1年後には33倍となつています。この施設の稼働率は、ホール80%、ギャラリー92%と高いものとなつています。

岐阜市とは、人口や財政規模が違うため、単純に比較することはできませんが、利用者に対する「おもてなし」の大切さで、稼働率が高いと感じました。(記田代 実)

可児市文化創造センター aiaa(アール)

開館は平成14年。運営は、このために設立された可児市文化芸術振興財団が可児市より指定管理を受けています。

収益の75%が指定管理



利用率が高い音楽練習室

料(平成29年度で4億5千万円)ですが、事業収益を出すことを常に意識し、また事業企画に対して国の補助金も獲得しています。

協力する市民は「aiaaクルーズ」として組織されNPO法人となり、活発に活動しています。

衛紀生館長は、「芸術の殿堂ではなく、人間の家」というモットーを掲げ、子どもから青年、現役世代、お年寄り、障がい者、生きづらさを感じる人まで、あらゆる人々に開かれた、つまり「社会包摂(インクルーシブ)」という在り方を追求すると同時に、どん

ん外に出て働きかけること(アウトリーチ)にも積極的に取り組んでいきます。

その他、さまざまな工夫がなされ、衛氏が館長に就任して以来、観客数が3・7倍となつています。

文化施設の運営理念として非常に大切なものを学ぶことができ、町民文化センターの今後の展開に活かしたいと思えました。(記平野由里子)

泊まれる公園

INN THE PARK

昭和50年代に整備された沼津市少年自然の家及び周辺の公園の施設をリ

ノベーションした新しいタイプの複合宿泊施設を見学しました。

特筆すべきは、森の中に設置した空中に浮遊する球体型のドームテントは、日本で初めて設置され、周りの立木とテントをワイヤーで保持し浮遊感を沸き立たせています。

このような旧来の施設をリニューアルし客単価の高い宿泊施設へと転換し、市の直営でなく民間への指定管理とし、利用を図っている事例は、松田町においても現在直営で運営しているハープ館や子ども館、自然館の運営に参考となる事例であると思えました。(記井上栄一)



球体型ドームテント



炭火コンロを使用し食事を提供



岐阜県

岐阜市

可児市